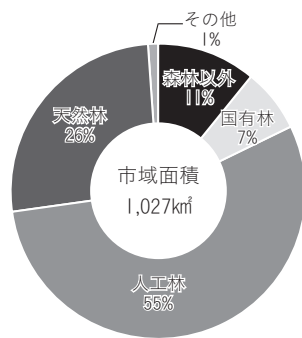


森林の存在



▲市の森林の状況

日本は森林率（地域面積における森林面積の割合）が世界第3位の森林国です。国土面積が37万7900km²のうち、森林の面積は25万500km²あり、森林率は67%です。

そして市は、市域面積が1027km²のうち、森林の面積は908km²あり、森林率は88%も占めています。

森林の状況

森林には人工林と天然林があります。人工林は、人の手によって植えてられており、市のほとんどがスギやヒノキで、これらは、冬になっても落葉することなく一年中緑色です。

天然林は、主として自然の力によって成り立っており、紅葉したり、冬には落葉したりするものもあります。

森林とは？

〒0739(48)0303
<http://www.city.tanabe.lg.jp/sanson/>

市の大部分を占めている森林。私たちの身近にある森林。そんな森林には、環境保全や土砂災害防止など多くの役割がありますが、一方で課題も抱えています。今月号では、森林についての理解を深めるとともに、新しくできた、森林を適切に管理していくための制度について紹介しています。

岡山村林業課 山村振興係



02 目次・特集「山づくりはまちづくり」

08 水害・土砂災害の防災情報が変わります！

10 トップニュース
 「みんなで選挙」参議院議員通常選挙が執行されます／後期高齢者医療保険料のお知らせ ほか

20 情報ボックス
 「おやこの食育教室」の参加者を募集します／きれいで豊かな水環境保全のために ほか

28 相談日程等

30 みんなの広場

34 みんなの彩時記
 駅前に新たな緑が生まれる場所として／梅の魅力を再発見！中学生が梅農業体験 ほか



今月の表紙写真

今月の表紙は、「JTの森 中辺路」の森林保全活動です。育成しようとする樹木以外の木を切り除く、除伐作業をしている様子を撮影しました。

森林が持つ8つの機能

地球環境保全機能

二酸化炭素の吸収により、地球温暖化を緩和する。

水源涵養機能

雨水を蓄え、流れる水量を調節し、雨水が土壌を通り水を浄化する。

快適環境形成機能

気候を緩和し、防風や防音等の効果により快適な環境を形成する。

保健・レクリエーション機能

森林浴・登山・スポーツなどの場で安らぎや癒しをもたらす。

土砂災害防止・土壌保全機能

樹木が根を張り巡らせることで土砂の崩壊を防ぐ。

生物多様性保全機能

動植物の住みかとなり、種や生態系を保全する。

文化機能

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」など行楽・芸術として感動を与える。

物資生産機能

木材をはじめ、きのこ・山菜・竹など様々な資源を生産する。

紙面で使用するマーク等の説明

日…日付・期間	定員
時…時間	料金・費用
休…休館日	持ち物
場…場所	申込み・申請方法
集…集合	問合せ
内…内容	[消印]…消印有効
対…対象・参加資格等	[先着]…先着順

◇☎マークには、振替休日等も含まれます。
 ◇料金や申込み方法の記載のないものは、不要です。
 ◇市役所の開庁時間（申込み・問合せ等の受付を含む。）は、☎を除く月～金の8時30分～17時15分です。毎週☎は、市民課・保険課・税務課の一部窓口を19時まで延長しています。

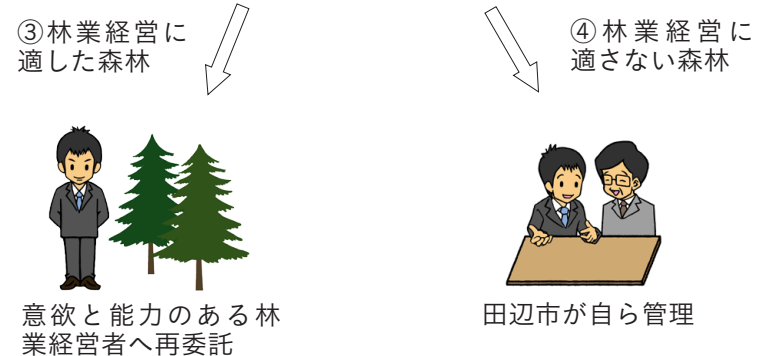
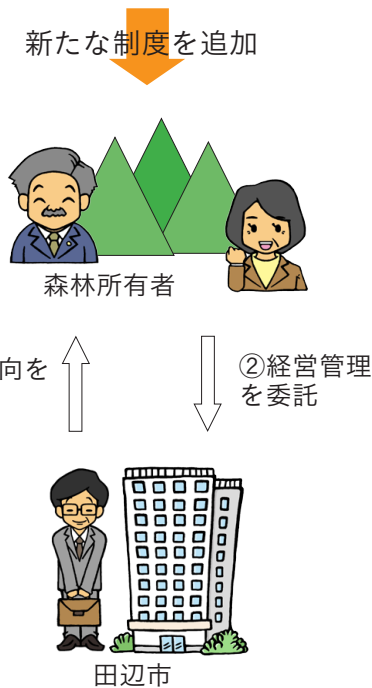
森林経営管理制度

注意！
◇森林や土地の所有権を市や林業経営者に移転するものではありません。
◇市では、様々な状況を踏まえた上で、委託をお受けするか判断します。必ずしも希望をお受けするものではありません。

森林管理を手助けします！
経営管理が行われていない森林を適切に整備し、林業の活性化と森林の公益的機能の発揮の両立をめざすため、森林経営管理法が今年の4月1日に施行されました。
この制度では、森林所有者に森林の適切な経営管理が義務付けられ、市町村がそのサポートを行うこととされています。経営管理をすることができない、又はしない場合には、市町村が代わりに経営管理をすることができ、森林所有者の意向に応じて、市町村が仲介役となり森林所有者と林業経営者をつなぐものです。この仕組みを森林経営管理制度といいます。

～森林経営管理制度の概要～

これまでは森林所有者が自ら管理又は林業経営者に委託して、山の経営管理を実施してきました。



森林管理について
お話を伺いました

田辺市は全国と比較すると、良く管理されている方だと思いますが、相続がきちんとされていないなどの理由で、管理されていない山はだんだん増えています。

この新しい制度は、今まで山に関心がない、持っているがどうすれば良いか分からないなどお困りの方は、是非ご活用いただければと思います。



龍神村森林組合
眞砂 佳明 組合長

森林組合としても、そういった山が災害時などに大きなダメージを受けないように管理を心掛けていきたいです。

森林所有者に
お話を伺いました

森林の土地は相続で譲り受けましたが、特に今まで管理などはしていませんでした。管理が行き届いていないと、例えば、台風で木が倒れたり、土砂崩れになったり、他の方に被害が出ることが心配です。そういったことを未然に防ぐためにも、この新しい制度で管理をしてもらえるので、とてもありがたいですね。



(Fさん)

林業とは



森林を取り巻く 問題と課題

森林は市内面積の大部分を占めており、それだけに森林が持つ役割はとても重要になります。しかし、次のように森林を取り巻く環境では多くの問題と課題が生じています。

◇木材価格の低迷

戦後の高度経済成長期に、建築用材として木材の需要が急速に増え、需要の増加に応じて木材価格も急騰しました。高まる木材需要に対応するため、木材輸入の自由化が開始され、安価で手に入ることができるようになりました。

この影響により、国産材の需要は次第に低下し、木材価格も昭和55年を境に下落していき、今ではピーク時の4分の1程度にまで落ち込んでいます。

◇森林所有者の関心の低下

木材価格の低迷などにより、所有者の森林に対する関心が低下しています。また、相続などにより山林を

取得したもの、場所自体からないという場合も多いです。

◇所有者不明森林の増加

森林所有者(登記名義人)が死亡しているにもかかわらず、登記されない土地が増加しているため、森林管理の集約化や境界の明確化の弊害となっています。

◇不在村森林所有者の増加

森林の相続や関心の低下により、森林所有者が市内に居住していない森林が増加しています。

◇担い手の減少

日本全体で人口減少が問題となっている中、林業の担い手が減少しています。

◇獣害被害の増加

植えたばかりの新しい苗木は柔らかいため、せっかく山に植えても鹿などに食べられてしまう被害が増加しており、伐採後の森づくりの弊害となっています。





森林の経営管理に関する意向調査にご協力ください

森林経営管理制度の実施に当たり、森林の経営管理の状況や所有者の意向を把握するため、まずは、森林所有者等を対象に森林の経営管理に関する意向の調査を実施します。

調査の対象となる森林

- 市内の地域森林計画対象民有林
- 地域森林計画…都道府県知事がたてる地域の特性に応じた森林整備・保全に関する計画
- 民有林…国有林以外の森林



調査の進め方



調査方法

調査は、市又は市から委託を受けた者が実施します。アンケート調査票を森林所有者等に送付しますので、ご自宅に通知が届いた方は、ご協力よろしくお願いします。なお、必ず森林所有者等本人の方が記入してください。

調査時期

市は、広大な森林面積を有するため、一度に全域を調査することができません。そのため、地区ごとに調査をする順番を決めて行いますので、地域によって調査時期が異なります。



山村林業課
山村振興係
玉置 晋也

山の価値を見直しませんか

本市は、全国的にみても突出して高い森林面積を持つまちです。2つの世界遺産があるように、市の山は貴重な資源であり、今回ご紹介したように私たちの暮らしと密接に関係しています。

その中で、森林の管理をしてもらいたいという気持ちがある一方、所有者の負担が大きいということで、もどかしさがありました。今回の制度が出来たことで、ご自身で管理ができない方には積極的に活用してもらえたらと思います。

また、山を所有していない方も、森林の役割を知ってもらうことで、みなさん山の恵みに感謝していければと思います。それが、山の保全や価値を高めることにもなり、市の森林を未来につなげる第一歩となるのではないのでしょうか。

森林との共存へ



森林整備の必要性

人工的に植えた人工林は、人の手によって手入れをする必要があります。しかし、林野庁の調査では、人工林の8割が手入れ不足と言われています。前述した森林が有する機能を十分に発揮するためには、森林整備が必要不可欠です。

森林経営管理制度によって期待できる効果

地域では、放置されていた森林の整備が進むことで、木材の安定供給と地域経済の活性化につながります。また、災害防止など地域住民の安全・安心につながります。森林所有者は、市町村が介入することによって、長期的に安心して森林の管理を任せることができます。

【写真右上】手入れをしていない森林は、木々が成長を阻害し合い、太くならず細いまま伸びます。林内は暗く、下層植生が発達しないため、根が深くまで伸びず、表土は崩れやすくなります。

【写真左上】十分に手入れをした森林は、木々の成長するスペースが確保されているため、十分成長できます。光が差し込み、下層植生が発達するため、根が深く、災害に強い森となります。

環境のためにあかね材も有効活用♪

皆さんは『あかね材』という木材をご存じでしょうか？

あかね材とは、スギノアカネトラカミキリと言う虫による食害を受けた木材のことです。この虫は、枯れ枝からスギやヒノキに侵入します。近年、枝打ちや間伐などの管理がされていない山が増えたことにより、あかね材の増加が問題になっています。あかね材は、強度や安全性には問題がないことが林業試験場の検査で証明されています。しかし、見た目が悪いということで、今まで中々利用が進みませんでした。

現在、そうしたあかね材を商品として売り出している活動があります。その活動に取り組んでいるのが、育林業・製材業・木工職人・一級建築士・家具販売業・グラフィックデザイナーの6名が集まったチームの「BokuMoku」です。BokuMokuは、あかね材の虫食い痕もありのままデザインの一部分として取り入れ、売り出すことにしました。活動当初は消極的な意見もあった

そうですが、最近では林野庁の『Forest Good 2018 間伐・間伐材利用コンクール』で特別賞を受賞するなど、その取組への風向きが変わってきたそうです。また、森林ツアーを企画すると、参加者は自然に触れることができ喜んでくれ、中には何度も参加する方も。メンバーの竹林陽子さんは「きっかけがないだけで、自然にふれたいという気持ちの方はたくさんいます。そうしたきっかけを作って山を身近に感じていただき、森林環境を良くするためにはどうしたらいいか考える方が、一人でも多く増えればいいですね」と話してくれました。



Bokumokuの皆さん(左から、山林敏巳さん、竹林陽子さん、竹林徹さん、榎本将明さん、中川雅也さん、岩見桂道さん)